

2025 年度（令和 7 年度）
ハブクラゲ等危害防止対策事業報告書

2026 年（令和 8 年） 4 月
沖縄県衛生環境研究所

2025 年度（令和 7 年度）ハブクラゲ等危害防止対策事業報告書

目次

- | | |
|---|---|
| 1. 海洋危険生物による刺咬症被害の概要 - 2025 年（令和 7 年） - | 1 |
|---|---|

海洋危険生物による刺咬症被害の概要 - 2025 年（令和 7 年） -

衛生科学班 宮城綾乃・安座間安仙・古謝あゆ子

I はじめに

沖縄県ではハブクラゲ等海洋危険生物による危害を未然に防止するため、1998 年に「ハブクラゲ等危害防止対策事務処理要領」が制定された。同要領に基づき 2025 年に報告された県内の海洋危険生物による刺咬症被害の概要について報告する。

II 調査方法

「ハブクラゲ等危害防止対策事務処理要領」に基づき、2025 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までに県内の医療機関および監視機関等から報告された「海洋危険生物刺咬症事故調査票」を集計した。

加害生物名は、基本的に調査票に記載のあった生物名で集計した。集計には「疑い」と報告されたものも含めた。標準和名で報告されていない生物については、報告された名称に「類」をつけ、まとめて集計した。

また、加害生物が「ハブクラゲ」として報告された調査票のうち、調査票記載の情報（発生時期、受傷部位、生物の形態、受傷時の状況等）から、加害生物と推定することが適さないと判断した 3 件（3 月下旬と 11 月下旬発生）については、「クラゲ類」の被害として集計した。

なお、構成比の数値は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも 100% とならない場合がある。

III 結果及び考察

2025 年に報告された海洋危険生物による刺咬症被害は 199 件だった。2024 年の刺咬症被害報告数 126 件¹⁾と比較すると 73 件増加した。ハブクラゲによる刺咬症被害は 81 件報告されており、2024 年の 37 件¹⁾より 44 件増加した。

1 被害者の概要

被害総数 199 件のうち、男性の被害は 110 件（55.3%）、女性の被害は 89 件（44.7%）であった（表 1）。

年齢階級別では、20 代の被害が最も多く 54 件（27.1%）、次いで 10 歳未満が 44 件（22.1%）、10 代が 43 件（21.6%）、30 代及び 40 代が各 20 件（10.1%）、50 代が 16 件（8.0%）、60 代及び年代不明が各 1 件（0.5%）であった（表 1）。

在住地別では、県内在住者の被害が 100 件（50.3%）、県外在住者の被害が 92 件（46.2%）、在住地不明の被害が 7 件（3.5%）であった（図 1）。

2 発生場所

被害報告が最も多かったのは北部保健所管内で、61 件（30.7%）の報告があった。次いで中部保健所管内及び宮古保健所管内で各 56 件（28.1%）、南部保健所管内（那覇市を含む）で 14 件（7.0%）、八重山保健所管内で 12 件（6.0%）の被害報告があった（表 2）。

市町村別で 10 件以上の被害報告があったのは宮古島市、うるま市、名護市、本部町及び今帰仁村で、宮古島市が 56 件（28.1%）、うるま市が 28 件（14.1%）、名護市が 19 件（9.5%）、本部町が 18 件（9.0%）、今帰仁村が 16 件（8.0%）であった（表 2）。

表1. 沖縄県における性別年代別刺咬症被害報告数（2025年）

性別	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	不明	合計
男	27	28	27	6	12	9	1	0	110
女	17	15	27	14	8	7	0	1	89
合計	44	43	54	20	20	16	1	1	199

3 発生時期

刺咬症被害は2月を除く通年で発生しており、被害報告が最も多かったのは8月で、79件(39.7%)の報告があった(表2)。被害は夏季にかけて増加しており、7月と8月の被害報告数は合計128件で、年間被害総数の64.3%を占めた(表2)。9月以降は報告数が減少し、冬季の被害は少なかった。

4 加害生物と被害の重症度

加害生物別では刺胞動物による被害が最も多く143件(71.9%)の報告があった。そのうちハブクラゲによる被害は81件(40.7%)、クラゲ類による被害は39件(19.6%)、カツオノエボシによる被害は15件(7.5%)であった。その他の刺胞動物では、イソギンチャク類で3件(1.5%)、クロガヤで2件(1.0%)、カツオノカンムリ、ウンバチイソギンチャク及びサンゴ類で各1件(0.5%)の被害が報告された(表3)。

魚類では21件(10.6%)の被害があり、オコゼ類で7件(3.5%)、オニダルマオコゼで5件(2.5%)、ミノカサゴ類で3件(1.5%)の報告があった。その他の魚類では、オニオコゼ、アイゴ、ヒメアイゴ、ハナミノカサゴ、ボロカサゴ及び不明魚類で各1件(0.5%)の被害報告があった(表3)。

棘皮動物では8件(4.0%)の被害があり、全てガンガゼによる被害報告であった。

爬虫類(ウミヘビ類)及び環形動物(ウミケムシ)では、各1件(0.5%)の被害があった。また、加害生物不明の被害は25件(12.6%)であった。

被害の重症度は、軽症が168件(84.4%)、中等症が16件(8.0%)、重症が1件(0.5%)、重症度不明が14件(7.0%)であった(表4)。重症事例の加害生物はウミヘビ類で、9月に宮古保健所管内で発生していた。20代男性が遊泳中に受傷し、入院を要した事例であった。

5 被害時の行動

被害時の行動は「遊泳」が166件(83.4%)と最も多く、次いで「その他」が16件(8.0%)、「ダイビング」が8件(4.0%)、「魚釣り」が4件(2.0%)、「潮干狩り」及び「漁労中」が各2件(1.0%)、「不明」が1件(0.5%)であった(表5)。「その他」の被害16件のうち、「マリン関係就業中」の被害は6件で、「マリンスポーツ中」の被害は6件であった。

「遊泳中」の被害で10件以上報告があった加害生物は、ハブクラゲが68件と最も多く、次いでクラゲ類が38件、カツオノエボシが14件であった(表5)。

6 海洋危険生物に関する知識の有無

県内在住の被害者100名のうち、海洋危険生物に関する「知識が有る」と回答した人は54名、「知識が無い」と回答した人は34名、回答不明が12

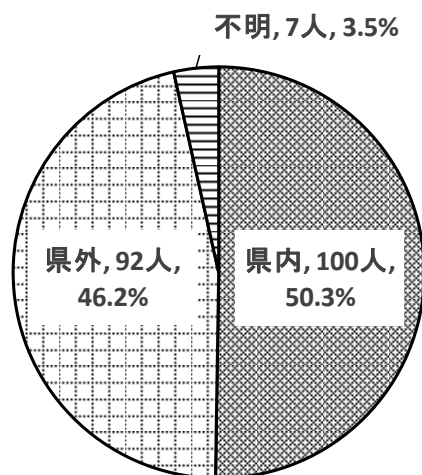


図1. 沖縄県における被害者の在住地別被害報告数(2025年)

名で、「知識が有る」人の割合は 54.0%であった（図 2）。一方、県外在住の被害者 92 名のうち、「知識が有る」と回答した人は 22 名で、「知識が無い」と回答した人は 59 名、回答不明が 11 名で、「知識が有る」人の割合は 23.9%であった（図 2）。

県外在住の被害者は 6 割以上が「知識が無い」と回答しており、県内在住の被害者と比べ海洋危険生物に関する認知度が低いことが分かった。

気候が温暖な沖縄県の海には、本土の海では見られない危険生物も生息していることから、来県する県外在住者にも注意喚起ができるような普及啓発方法について検討していく必要がある。

7 県外在住者の被害状況

今帰仁村、本部町、恩納村、読谷村、那覇市、宮古島市及び竹富町の 7 市町村では、県外在住者（主に観光客）の被害報告数が、市町村別被害報告数の半数を超過していた。今帰仁村で 16 件中 14 件（87.5%）、本部町で 18 件中 10 件（55.6%）、恩納村で 6 件中 6 件（100.0%）、読谷村及び竹富町で 2 件中 2 件（100.0%）、那覇市で 5 件中 3 件（60.0%）、宮古島市で 56 件中 37 件（66.1%）が県外在住者の被害であった（表 6）。これらの地域では、観光客へ向けた注意喚起も必要だと考えられる。

8 ハブクラゲによる刺症被害

2025 年のハブクラゲによる刺症被害は 81 件報告された。被害は 5 月から 10 月にかけて発生し、最も多い 8 月には 43 件の報告があった（表 3）。最も早い被害報告日は宮古島市の 5 月 16 日であり、最も遅い報告日は本部町の 10 月 8 日であった。

ハブクラゲ被害報告が最も多かったのは中部保健所管内で、35 件の報告があった。次いで北部保健所管内の 24 件、宮古保健所管内の 9 件、南部保健所管内（那覇市を含む）の 8 件、八重山保健所管内の 5 件となっていた（表 7）。

9 2025 年の海洋危険生物刺咬症被害の特徴

2025 年の刺咬症被害報告数は 199 件で、2024 年の 126 件と比べると 73 件増加した¹⁾。

2021 年から 2023 年にかけては、新型コロナウイルス感染症や台風の影響により被害報告数は 100 件程度で推移していたが、2024 年と 2025 年は 2 年連続で増加する結果となった²⁾。

2025 年の被害報告数が増加した理由として、沖縄県入域観光客数の増加と夏季の台風襲来が無かったことが影響していると考えられる。

2025 年の入域観光客数は 1,075 万 6,000 人で、対前年比で 108 万 7,200 人増（11.2%増）となっており、これまで最多を記録した 2019 年の 1,016 万 3,900 人を上回り過去最高を記録した³⁾。

特に夏期（7～9 月）にかけては、多くの観光客が海水浴とマリレジャーを目的に来県していることから⁴⁾、この時期に海に入る人が多くなり、前年より被害報告数が増加したと考えられる。

外国人観光客数についても、過去最多を記録した 2019 年の 96.8%の水準まで回復していることから³⁾、今後は外国語版パンフレット等を活用した注意喚起も有効だと考えられる。

また、2025 年の 8 月と 9 月は沖縄本島地方に接近した台風がなかったため⁵⁾、県民及び観光客が海に入る機会も多くなったと予想され、被害報告数の増加につながったと考えられる。

IV 謝辞

本調査を実施するにあたり、情報提供にご協力いただいた医療機関及び監視機関の方々、情報収集にご協力いただいた市町村及び保健所の方々に深謝いたします。

V 参考資料

- 1) 宮城綾乃・安座間安仙・古謝あゆ子（2025）. 海洋危険生物による刺咬症被害の概要-2024 年（令和

- 6年) -。2024年度(令和6年度)ハブクラゲ等危害防止対策事業報告書, pp. 1-7.
- 2) 沖縄県衛生環境研究所(2026). 沖縄県における海洋危険生物刺咬症被害発生状況(1998~2025年). <<https://www.pref.okinawa.jp/kurashikankyo/petgaiju/1018721/1005068/1005069.html>>. 2026年4月16日アクセス.
- 3) 沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課(2026). 令和7年(暦年)沖縄県入域観光客統計概況(確定版)(令和8年3月25公表). <<https://www.pref.okinawa.lg.jp/shigoto/kankotokusan/1011671/1011816/1003287/1026300.html>>. 2026年4月14日アクセス.
- 4) 沖縄県文化観光スポーツ部(2025). 令和6年度観光統計実態調査報告書(1). pp. 1-26. <<https://www.pref.okinawa.lg.jp/shigoto/kankotokusan/1011671/1011816/1011825/1036934.html>>. 2026年4月14日アクセス.
- 5) 台風8・9月本島接近ゼロ. 沖縄タイムス, 2025年9月30日, 日刊, p. 1

表2. 沖縄県における市町村別月別刺咬症被害報告数(2025年)

管轄保健所	市町村	月												合計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
北部保健所	名護市	0	0	0	1	0	3	7	4	3	1	0	0	19
	国頭村	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3	
	大宜味村	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	
	東村	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
	今帰仁村	1	0	0	0	0	0	4	6	4	1	0	16	
	本部町	0	0	0	0	0	2	2	7	3	4	0	18	
	不明	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
	小計	2	0	0	1	0	6	15	21	10	6	0	61	
中部保健所	沖縄市	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	うるま市	0	0	0	1	1	0	3	22	0	0	0	28	
	恩納村	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	6	
	宜野座村	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3	
	金武町	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3	
	読谷村	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	嘉手納町	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	北谷町	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
	中城村	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	
	不明	1	0	1	0	0	0	4	3	0	0	0	9	
小計	1	0	2	1	1	1	12	34	2	0	0	56		
南部保健所	那覇市	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	5	
	浦添市	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
	糸満市	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
	南城市	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	
	西原町	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
	不明	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3	
	小計	0	0	0	0	0	0	9	5	0	0	0	14	
宮古保健所	宮古島市	0	0	0	2	2	9	11	15	7	3	5	56	
八重山保健所	石垣市	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	0	6	
	竹富町	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	
	与那国町	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	4	
	小計	0	0	0	3	0	2	2	4	1	0	0	12	
合計		3	0	2	7	3	18	49	79	20	9	5	4	199

表3. 沖縄県における加害生物別月別刺咬症被害報告数(2025年)

加害生物	月												合計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
刺胞動物	ハブクラゲ	0	0	0	0	1	2	27	43	5	3	0	0	81
	カツオノエボシ	0	0	0	0	0	2	4	5	0	0	1	3	15
	クロガヤ	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	カツオノカンムリ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	クラゲ類	1	0	1	0	0	3	10	14	7	1	2	0	39
	ウンバチイソギンチャク	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	イソギンチャク類	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	3
	サンゴ類	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	小計	1	0	1	2	1	8	41	64	14	4	4	3	143
魚類	オニダルマオコゼ	0	0	0	1	0	0	0	3	1	0	0	0	5
	オニオコゼ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	オコゼ類	1	0	0	0	1	2	1	1	1	0	0	0	7
	アイゴ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	ヒメアイゴ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	ハナミノカサゴ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	ミノカサゴ類	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3
	ボロカサゴ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
小計	2	0	0	1	1	6	1	5	2	1	1	1	21	
棘皮動物	ガンガゼ	0	0	1	0	1	0	0	3	2	1	0	0	8
爬虫類	ウミヘビ類	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
環形動物	ウミケムシ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
不明		0	0	0	3	0	4	7	7	1	3	0	0	25
合計		3	0	2	7	3	18	49	79	20	9	5	4	199

表4. 沖縄県における加害生物別重症度別刺咬症被害報告数(2025年)

加害生物	軽症	中等症	重症	不明	合計	
刺胞動物	ハブクラゲ	67	7	0	7	81
	カツオノエボシ	15	0	0	0	15
	クロガヤ	2	0	0	0	2
	カツオノカンムリ	1	0	0	0	1
	クラゲ類	37	1	0	1	39
	ウンバチイソギンチャク	0	1	0	0	1
	イソギンチャク類	2	1	0	0	3
	サンゴ類	1	0	0	0	1
	小計	125	10	0	8	143
魚類	オニダルマオコゼ	3	1	0	1	5
	オニオコゼ	0	0	0	1	1
	オコゼ類	5	2	0	0	7
	アイゴ	0	1	0	0	1
	ヒメアイゴ	1	0	0	0	1
	ハナミノカサゴ	1	0	0	0	1
	ミノカサゴ類	3	0	0	0	3
	ボロカサゴ	1	0	0	0	1
	不明	0	1	0	0	1
小計	14	5	0	2	21	
棘皮動物	ガンガゼ	8	0	0	0	8
爬虫類	ウミヘビ類	0	0	1	0	1
環形動物	ウミケムシ	1	0	0	0	1
不明		20	1	0	4	25
合計	168	16	1	14	199	

表5. 沖縄県における加害生物別被害時の行動別刺咬症被害報告数（2025年）

加害生物	遊泳	ダイビング (潜水)		魚釣り	潮干狩り	漁労中	その他	不明	合計
刺胞動物	ハブクラゲ	68	3	1	0	0	9	0	81
	カツオノエボシ	14	0	0	0	0	0	1	15
	クロガヤ	2	0	0	0	0	0	0	2
	カツオノカンムリ	1	0	0	0	0	0	0	1
	クラゲ類	38	1	0	0	0	0	0	39
	ウンバチイソギンチャク	1	0	0	0	0	0	0	1
	イソギンチャク類	3	0	0	0	0	0	0	3
	サンゴ類	1	0	0	0	0	0	0	1
小計	128	4	1	0	0	0	9	1	143
魚類	オニダルマオコゼ	4	0	0	0	1	0	0	5
	オニオコゼ	0	0	0	1	0	0	0	1
	オコゼ類	3	1	0	0	0	3	0	7
	アイゴ	0	0	1	0	0	0	0	1
	ヒメアイゴ	0	0	0	0	0	1	0	1
	ハナミノカサゴ	0	0	0	0	1	0	0	1
	ミノカサゴ類	2	0	1	0	0	0	0	3
	ボロカサゴ	0	0	0	0	0	1	0	1
	不明	0	1	0	0	0	0	0	1
小計	9	2	2	1	2	5	0	21	
棘皮動物	ガンガゼ	8	0	0	0	0	0	0	8
爬虫類	ウミヘビ類	1	0	0	0	0	0	0	1
環形動物	ウミケムシ	0	0	0	1	0	0	0	1
不明		20	2	1	0	0	2	0	25
合計		166	8	4	2	2	16	1	199

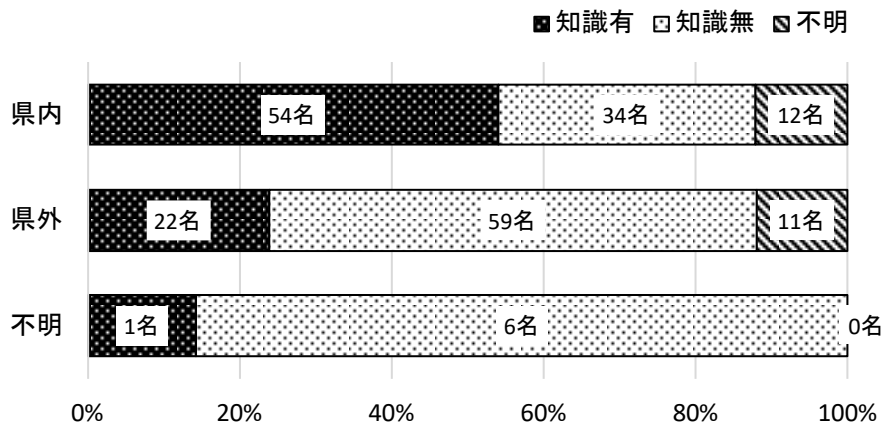


図2. 沖縄県における被害者の居住地別海洋危険生物に関する知識の有無(2025年)

表6. 沖縄県における市町村別在住地別刺咬症被害報告数（2025年）

管轄保健所	市町村	被害者の在住地			合計
		県内	県外	不明	
北部保健所	名護市	13	3	3	19
	国頭村	3	0	0	3
	大宜味村	0	1	1	2
	東村	1	0	0	1
	今帰仁村	1	14	1	16
	本部町	8	10	0	18
	不明	0	1	1	2
	小計	26	29	6	61
中部保健所	沖縄市	1	0	0	1
	うるま市	24	4	0	28
	恩納村	0	6	0	6
	宜野座村	3	0	0	3
	金武町	1	1	1	3
	読谷村	0	2	0	2
	嘉手納町	1	0	0	1
	北谷町	1	0	0	1
	中城村	2	0	0	2
	不明	6	3	0	9
	小計	39	16	1	56
南部保健所	那覇市	2	3	0	5
	浦添市	1	0	0	1
	糸満市	1	0	0	1
	南城市	2	0	0	2
	西原町	2	0	0	2
	不明	1	2	0	3
	小計	9	5	0	14
宮古保健所	宮古島市	19	37	0	56
八重山保健所	石垣市	3	3	0	6
	竹富町	0	2	0	2
	与那国町	4	0	0	4
	小計	7	5	0	12
合計		100	92	7	199

表7. 沖縄県における市町村別月別ハブクラゲ刺症被害報告数(2025年)

管轄保健所	市町村	月															合計			
		5			6			7			8			9				10		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		上旬	中旬	下旬
北部保健所	名護市	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5
	国頭村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	大宜味村	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	東村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	今帰仁村	0	0	0	0	0	0	0	1	3	2	0	1	0	1	0	0	0	0	8
	本部町	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	0	3	0	0	7
	小計	0	0	0	0	0	0	0	4	5	3	4	3	1	1	0	3	0	0	24
中部保健所	うるま市	0	0	0	0	0	0	0	2	13	4	2	0	0	0	0	0	0	0	21
	恩納村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
	宜野座村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	金武町	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	読谷村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	嘉手納町	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	中城村	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	不明	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	6
小計	0	0	0	0	0	0	0	2	5	18	7	2	0	0	1	0	0	0	35	
南部保健所	那覇市	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	南城市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	西原町	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	不明	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	小計	0	0	0	0	0	0	1	2	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	8
宮古保健所	宮古島市	0	1	0	0	0	1	0	0	2	1	2	0	0	0	2	0	0	0	9
八重山保健所	石垣市	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	竹富町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	小計	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5
合計		0	1	0	0	0	2	1	10	16	23	14	6	1	1	3	3	0	0	81